

学生とシニアの対話 in 八戸 2009 学生事後アンケート集計

平成 22 年 3 月 17 日

学生幹事 関原 亨

大山貴史

中村祐太

注 出席者 39 名中アンケート回収 35 名、ただし回答によっては未回答のグループもあります

1. 講義の内容は満足 of いくものでしたか？その理由は？

A：とても満足 19 人

理由・世界の様々な核の状況を知れた

- ・学校で学べないことが学べた
- ・オクロの天然原子炉など知らないことが知れたし、おさらいができた
- ・原子力学習で理解していたことを再度学べた
- ・報道が偏っていることを知った
- ・八戸のえんぶりと、原子力技術は技と心を受け継ぐものだという言葉に感動した
- ・一つのテーブルにシニアメンバーの方が座って話をしてくれたのがよかった
- ・専門分野ではないためわからないことも多かったが現状に対して考えさせられることも多かった

B：ある程度満足 15 人

理由・もっと聞きたかった

- ・聞いていて飽きなかった
- ・原子力について改めて理解が深まった
- ・原子力の重要性を確認できた

C：やや不満 0 人

D：不満 1 人

理由・発表をさせられた

2. 対話の内容は満足 of いくものでしたか？その理由は？

A：とても満足 21 人

理由・原子力関係で就職に関する疑問が聞けた

- ・質問に具体的に答えてくれた
- ・社会人の心構えを学べた

- ・いろいろ聞けたから
- ・聞きたい事も聞けたし、前々から気になっていたことも聞けた
- ・原子力だけの知識だけではなく、社会の厳しさ等、まだ自分がしたことが無いようなアドバイスを得ることができるから
- ・夏季、秋季の他に内容の濃い話をさせていただいてよかった
- ・とても興味をそそられる話ばかりだったので、会話内容がためになった
- ・シニアの意見や教え方というのを聞いて非常にためになった

B：ある程度満足 10人

理由・時間が少し足りない、話すテーマ（取っ掛かり）が少ない

- ・みんなの聞きたいことが聞けた
- ・一般的な話が多いほうがよかった
- ・面白い話を聞いてよかった
- ・様々な方面の方から意見を聞けた

C：やや不満 4人

理由・対話のテーマがあいまいすぎる

- ・与えられたテーマについて話すことができない
- ・内容にまとまりがなかった

D：不満 0人

3. 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

A：聞けた 16人

B：ほぼ聞けた 17人

C：余り聞けなかった 1人

D：聞けなかった 0人

どんなことが聞けなかったか

- ・ 専門分野について
- ・ 人生

4. 今回の対話で得られたことは何ですか？

- ・ 就職に対する企業からの望ましい人物像
- ・ 原子力技術者は総合的な力が必要なこと
- ・ シニアの方の考えが聞けた
- ・ 電子制御、協調性、チャレンジ精神
- ・ なぜ原子炉は一定で運転しているのかという質問
- ・ 人生で大事なこと、働く意味、社会の厳しさ
- ・ 立地について

- ・ 共通できる話題が大切なこと
- ・ 放射線は危険ではないということ
- ・ 技術者としての心得、社会人の心構え
- ・ 報道の偏り
- ・ 核融合炉
- ・ 伝統を伝えていく大切さ
- ・ 資源の大切さ
- ・ 原子力についての情報がテレビでは的確に伝えられていないこと
- ・ 原子力産業がどのような人材を求めているか聞くことができた
- ・ 核融合と原子力の技術の差
- ・ 原子力の化学技術について、MOX 燃料について
- ・ 原子力関連の今後の展望やあり方がわかった
- ・ 仕事について働いてきた人の考えを聞いた
- ・ 自分にリーダーシップがないことを再確認した
- ・ 柔軟なものの考え方

5. 学生とシニアの対話の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

A：非常にある 14人

理由・中々関り合えないシニアの方々との対話は非常に経験になる

- ・ 原子力だけでなく人生について語っていただけたから
- ・ 大学で機会が無いから
- ・ シニアの意見を聞くことにより改めて考えさせられることも多かった
- ・ 働くこと、生きていくことについての考え方が変わる

B：ある 17人

理由・企業の先輩方の話より重みがあった

- ・ いろいろな話を聞いてよかった
- ・ 仕事をする上でどのようなことを思いながら仕事をするか等大切な事が聞けるから
- ・ こういった人たちとの対話はめったにない機会なのであった方がよい
- ・ 中々重要な話を聞くことができた
- ・ ベテランとの会話で得るものはあると思う

C：余りない 2人

理由・事前に勉強したことをどう活かせばいいかわからない

D：ない 0人

6. 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

- A：まだまだ話したりないので参加したい 3人
B：もっと勉強してから参加したい 28人
C：聞きたいことが聞けたからもう良い 3人
D：この対話会は意味が無いから参加しない 0人

7. エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

- A：大いに变化した 5人
理由・具体的な石油の残り年数を見て危機感を覚えた
- B：变化した 9人
理由・ある程度授業で知っていたが、シニアの方々との対話で新たに知ることが多かったから
・残量が少ないから
・中国とインドの経済成長率がずば抜けて高いことを知った
・今まで考えていた以上に危機的であるということがわかり、エネルギーに対する考え方を変えなければならない
- C：少し変わった 9人
理由・東北地方で40%以上エネルギーを作っていること
・風力、水力、太陽光はコストが高い
- D：変わらなかった 8人
理由・危機であることに変わりない。化石燃料よりウランが先に無くなる
・認識を持っていた
・以前聞いた内容と変わらないため

8. 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

- A：变化した 5人
理由・メディアで取り上げるような危険なものではない。
とにかく安全だということ
- B：余り変わらなかった 7人
理由・シニアとの対話ではなくこの研修全体でなら大きく变化した
・プログラムで習ったから
・良い方にイメージを持っていたので話を聞いて更にイメージが良くなった
・安全性は認知していた。正しく恐れる
- C：少し変わった 8人
理由・自分の分野の電子制御は原子力はもちろんだが、送電系統にも使用されていることを知った
・元々原子力は必要とわかっていたから

- ・原子力は危険だと思っていたが、チャレンジ原子力体感プログラムそうではないと認識したから

D：変わらなかった 11人

- 理由・元々危険なものとは思っていない
- ・思っていたイメージとたいして変わらなかった

9. 原子力に自分の専門分野の技術知識は活かせれると思ったか。

活かせると思う知識、技術と原子力の分野、仕事を書いてください。

- ・化学分析、化学技術（再処理工程）
- ・分離工学（ウランの分離や濃縮）
- ・シーケンス制御
- ・知能ハードウェア工学、アナログデジタル回路、メンテナンス、施設運転業務
- ・機械、設備、設計、機械設備作業、機械加工、熱力学、ランキンサイクルの熱効率
- ・わからない
- ・電気
- ・建物の建設等

10. 原子力に対する関心の低い10代、20代の若年層に対する原子力広報活動はどんな方法があると思うか。

- ・インターネット。学校ぐるみの企画。
- ・原子力に関するドラマや映画を作製する
- ・テレビ番組、CM、モバイルコンテンツ
- ・アイドルが宣伝
- ・体験学習
- ・まずは技術屋を広めなくてはならない
- ・若年層が集まる場所での広報
- ・若年層に人気のあるテレビ番組のCM
- ・テレビで的確な情報を伝える
- ・そもそもメディアが取り上げるような内容が些細なことなのに、大きく取り上げすぎて影響を受けているのではないかと感じた
- ・すぐに関心が出るわけではないので、それぞれの小中高の学校で地道に原子力の知識を広げ、頭に残す
- ・もっと電気の発電というものを身近にする
- ・安全性の高さやリスクの低さを広める
- ・情報を老年層に広める
- ・現場を見る

- ・一風変わったものが望ましい

幹事としての感想

幹事を務めるのははじめての経験でしたが、何事も無くスムーズに対話会を行うことができたのも伊藤様はじめシニアの方々の協力によるものかと思います。学生も参加して大変価値のあった対話会だったと実感しているようでした。原子力に関することももちろんですが、社会人としての心構えや技術者の心得ということも学べたかと思います。懇親会では学生もより親身な会話をできていたようで、参加して意義がありました。

伊藤様はじめシニアの方々には心より御礼申し上げます。